

## 参考文献

廣田勇, 1974: 気候変動のモデリングについて, 天気, 21, 617-623.  
 ———, 1979: 気候変動論序説. 大気環境の科学 4

(山本義一編, 東京大学出版会), 190-201.  
 ———, 1981大気大循環と気候. 東京大学出版会. pp. 124.  
 ———, 1992: グローバル気象学. 同上. pp. 148.



## 第20回気候影響・利用研究会 研究会プログラム

## I 気候影響・利用研究会10年を振り返って

小元敬男 (大阪府立大学)

## II IPCC 第2作業部会(気候変動の潜在的影響)報告書作成作業について

(各発表25分程度)

## 1. IPCC の作業について

西岡秀三 (国立環境研究所)

## 2. 水文および水資源への影響

花木啓祐 (東京大学)

## 3. 沿岸域と島国への影響 三村信男 (茨城大学)

## 4. 陸上自然生態系への影響 及川武久 (筑波大学)

## 5. 砂漠化との関連 吉野正敏 (愛知大学)

## 6. 人間・健康への影響

安藤 満 (国立環境研究所)

## 7. 産業への影響 大喜多敏一 (桜美林大学)

## 8. 気候変動による環境影響モデル

原沢英夫 (国立環境研究所)

甲斐啓子 (国立環境研究所)

## “カラーページ” 原稿急募

第38巻より隔月掲載で開始した“カラーページ”の連載も、いよいよ第41巻の1月号から4年目に入ります。この間、投稿頂いた方をはじめとする多くの皆様の御協力により本欄を続けてまいりましたが、4年目突入を機に、今まで以上に幅広い分野での写真を紹介していきたいと思っております。大気現象のみならず、コ

ンピュータグラフィックスや珍しい観測機器、その他何でも結構ですので、広く皆様からの投稿をお待ちします。

なお、投稿案内は1月号を参考に願いますが、「こういう写真があるんだけど……」といった相談にも応じますので、御気軽に編集委員会まで連絡下さい。

き、予報課長であった内田さんは陣頭指揮されて調査をなさり、たつ巻であったと定量的な証拠を積み重ねて証明されました。

昭和60年4月に気象庁長官になられた内田さんは伊豆大島の噴火の対応にご苦労なさいましたが、その間にも歴代長官がどうしても踏み切れなかった民間に天気予報を開放する方角にGOを出されました。内田さんの大胆な面を発揮されたもので、今日の気象業務法改正の実質的な出発点になったものと拝察しています。

退官後に日本気象協会顧問になられた内田さんは高橋浩一郎先生の跡をついで産業気象利用者協議会の会長として、また損害保険協会でも活躍されました。平成5年9月24日に気象協会麹町事務所に出勤された内

田さんは、「旅行会の団長として旧東ドイツへ行って鎮魂のミサ曲を聴いてとてもよかった。私が死んだらやり残した仕事がある2つあるので、近く開かれる2つの座談会の席上で誰と誰にやってもらいたいと述べたい」とおっしゃいますので、「内田さんは90歳か100歳まで長生きなさいますよ」と申し上げたのですが、座談会の前に亡くなりました。待晨集会の密葬の司式者の述べた「なんじ内田英治よ、よくやった、もうよい、ただちに天へ来い、と神が内田兄の脳幹部を一撃なさいまして、どなたとも口をきくことなく天に召されました」は本当であったかと感じました。良き先輩であった内田さんのご冥福をお祈りします。

(日本気象協会 駒林 誠)



## 熱帯低気圧の進路予報に関する国際会議

標記国際会議を1994年1月17日(月)～21日(金)に気象庁において開催します。この会議は、熱帯低気圧の数値予報に関する諸問題を幅広く議論し、その改善を目指すもので、海外の気象機関や研究機関から10名の研究者を招待する予定です。また、台風予報に関心を持つ国内の研究者の参加を募ります。自由に参加し台風予報の将来を大いに議論していただきたいと思っています。

1. 期日、会場：1994年1月17日(月)～21日(金)  
気象庁第一会議室

### 2. 内容

- (1) 各予報センターの数値予報モデルの現状(熱帯低気圧を中心として)
- (2) 数値予報のための熱帯低気圧実況把握(観測、データ同化、客観解析ほか)
- (3) 熱帯低気圧の短期予報(熱帯低気圧のための狭領域数値予報モデリングほか)

- (4) 熱帯低気圧の週間予報(熱帯低気圧のための全球数値予報モデリングほか)
- (5) 熱帯低気圧の基礎研究(構造、発生発達や移動のメカニズム、気候特性ほか)

3. 使用言語：英語

4. 参加無料

プログラムの詳細は現在調整中です。詳しくは下記までお問い合わせください。特に口頭発表をご希望の方はできるだけ早くご連絡下さい。

\*この会議は(財)シップアンドオーシャン財団(笹川良一会長)の平成5年度海外交流事業の一環として実施されます。

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁数値予報課内

熱帯低気圧会議担当 岩崎俊樹、上野 充

TEL 03-3212-8341 内線3315

FAX 03-3211-8407



## 気候フォーラム

「地球の未来のために 気候の変動と予測～その現状と課題～」

日時：平成6年1月29日（土） 13時30分～17時  
会場：千代田区公会堂（東京都千代田区九段南  
1-6-17）

主催：気象庁，日本気象協会

参加費：無料（先着900名）

問い合わせ先：気象庁総務部企画課気候変動対策室  
TEL 03-3212-8341（内線2263）

### 第一部 基調講演

- ① 「気候変動の実態」（仮題）  
山元龍三郎 京都大学名誉教授
- ② 「気候と二酸化炭素」（仮題）  
田中 正之 東北大学理学部長

③ 「コンピュータシミュレーションはどこまで気候を予測できるか」（仮題）

時岡 達志 気象研究所気候研究部第一研究室長

第二部 パネルディスカッション（不確実性と今後の課題）

コーディネーター

松野 太郎 東京大学気候システム研究センター長

パネラー

上記講演者及び

二宮 洸三 気象庁長官

編集後記：早いもので、表紙のデザインを一新した Vol. 40 も No. 12 をお届けすることになりました。何時もですと、12月号は年が明けてからの配布となりますが、第28期の役員選挙の告示掲載の関係から年内の発行が必要となりました。ご承知のように、来期役員の選出方法が変更され、春の総会前に役員候補を選挙しなくてはならなくなりました。その日程を睨んで、選挙告示掲載の12月号を年内に会員に配布するための処置です。年末年始の印刷や郵送事情を勘案して編集も大幅に繰り上げざるをえませんでした。内容には

遺漏のないように万全を期したつもりです。

残務整理は残っておりますが、最後の IAMAP も無事に終了しました。最後のに奇異の感を持つ会員もいると思いますが、次回からは IAMAS (International Association for Meteorology and Atmospheric Sciences) と改名されることになりました。全会員の支援の下に気象学会が主催したこの国際会議の全容を特集した Vol. 40 の特別号を今年度中に発行するよう、その準備を進めておりますのでご期待ください。

(関口理郎)